

【決勝戦】

流経大柏 vs 日体大柏

蒸し暑さの残る決勝戦、ピッチコンディションは良好。県立柏の葉競技場で行われた「柏ダービー」には、沢山の観客が詰めかけた。奇しくも、令和6年度全国高校サッカー選手権千葉県大会の決勝戦と同じカードは、13:05にキックオフを迎えた。

流経大柏のフォーメーションは1-4-3-2-1。対する日体大柏は1-3-4-2-1。後ろ3人でビルドアップ開始する日体大柏に対して、流経大柏は守備時に1-4-3-3と可変し前線3人でプレスをかける。流経大柏サイドバックが、相手ウイングバックに素早いプレスをかける展開に日体大柏はなかなか前進ができない。運動量、守備の質、切り替えの速さは現在プレミアリーグEASTで首位を走る貫禄を感じさせる。流経大柏はFW②⑩大藤のキープで攻撃の時間を作り相手を密集させ、サイドのスペースをMF⑩安藤を中心とした個人技で突破しチャンスを作り出す。16分、DF⑩大徳がジャンプヘッドで競り勝ったボールをFW⑩金子がヘディングで逸らしパスを出す。スピードに乗った素晴らしい1タッチで裏に抜け出したFW②⑩大藤がGKとの1対1を冷静に決め1-0と先制する。この得点で勢いがついた流経大柏はボール保持の時間が増え、ショートパスとドリブルを織り混ぜながら相手ゴール前に迫っていく。対する日体大柏はスピードのあるFW②⑤込山の裏への抜け出し、MF⑪三橋やMF⑧那須がドリブルで相手を剥がして攻撃の起点となる。36分、流経大柏DF②乙川が右サイドからの相手DFライン背後へのロングボール。相手GKと入れ替わったFW⑩金子が無人のゴールに落ちていて決め、2-0とする。41分、日体大柏にも決定機が生まれた。右サイドで日体大柏⑧那須からのパスを、裏にランニングしたMF⑭安塚がマイナスのクロス出す。これをMF⑩沼田がダイレクトシュートするが、流経大柏GK①藤田の好セーブに阻まれる。前半はこのまま2-0で折り返す。

日体大柏はGK⑫安彦、FW⑨小泉が後半から出場。46分、日体大柏DF⑬安里が右サイドの⑧那須へ大きくサイドチェンジ。絶妙なファーストタッチで相手サイドバックと入れ替わった⑧那須が上げたクロスに、FW⑨小泉が身体で押し込み、執念のゴール。2-1と日体大柏が反撃に出る。この展開に会場の声援が一際大きくなる。後半中盤、日体大柏はDFからMF⑧那須、FW⑨小泉にボールを配球、一つ飛ばした選手を使うことで相手のプレスを掻い潜る。徐々に日体大柏がボールを保持し、攻め上がる時間が増える。一方、流経大柏はシンプルにFWにボールを入れる攻撃。攻守が入れ替わるオープンな展開になり、互いにライン間にスペースができ始める。後半30分過ぎ、流経大柏は1-3-6-1の3バックに変更。これにより相手のサイドの攻め上がるスペースを消し、相手ウイングバックにプレスをかけられるようになる。後半80分、日体大柏のフリーキックのクイックリスタートを前線で奪ったFW⑩⑩金子がFW②⑩大藤にパス、本日2得点目がゴールに吸い込まれた。後半から出場した選手は、流経大柏4人、日体大柏4人と互いに総力戦となった。このまま試合は終了し、3-1で流経大柏が勝利を収めた。終わってみれば流経大柏はシュート11本、直接フリーキック17回と多くのチャンス作った。

(日体大柏はシュート4本、直接フリーキック6回)

令和7年の千葉県総体決勝は、フィジカル・テクニックで相手を上回った流経大柏が優勝し、4年ぶり11回目の全国総体出場を決めた。